



2017年(平成29年)3月31日

京を代表する三つの花街の芸妓・舞妓による華やかな伝統舞踊の競演

『京の夕べ ～祇園甲部・先斗町・上七軒～』 を開催

日 時：2017年6月29日(木) お食事 18:00～ 開演 19:15～
会 場：孔雀の間(3階)
料 金：お一人様 24,000円(お料理・お飲物付。サービス料・消費税込)
予 約 開 始：2017年4月10日(月) 10:00～

帝国ホテル大阪(総支配人：幸田雅弘、大阪市北区)では、京都の祇園甲部、先斗町、上七軒(※注)の芸舞妓による伝統舞踊の共演を、和洋折衷のお食事とともにお楽しみいただく恒例の『京の夕べ』を、2017年6月29日(木)に開催いたします。

20回目を迎える今回も、京を代表する三つの^{かがい}花街の芸妓、舞妓が一堂に揃い、目にも艶やかで豪華な一夜をお楽しみいただけます。



『京の夕べ』は、京都の四季の恒例行事で知られる、祇園甲部・先斗町・上七軒の芸舞妓が一堂に揃う艶やかな共演です。毎年春に開かれる祇園甲部の「都をどり」をはじめ、先斗町の「鴨川をどり」、上七軒の「北野をどり」は、それぞれ京都の四季を告げる象徴的な恒例行事として広く知られており、これらの三つの花街の舞台を揃ってお楽しみいただけるのは大変貴重な機会となります。

伝統と格式を備えた舞踏は京の華やかさの極みといわれています。さらに、花街ごとに足運びや細かなしぐさなどに特徴があり、それぞれの踊りの違いを見比べられることも見所のひとつです。また、最後の演目<祇園小唄>では、三つの花街の競演を観ることができるのも『京の夕べ』ならではの醍醐味です。

舞台をお楽しみいただく前には、お食事をご用意します。芸妓、舞妓による会場でのお出迎え、お食事中的写真撮影など、優雅なお座敷気分をお楽しみいただけます。

『京の夕べ』の開催概要は次頁の通りです。

※注

祇園甲部 京都で最も大きな花街で、八坂神社の門前町として江戸時代から栄えてきました。御所風の雅やかな立ち振る舞いに、能の技法を取り入れた格調高い井上流の「京舞」が特徴です。京の春を代表する総踊り形式の「都をどり」は、日本初の博覧会「第一回京都博覧会」の観光客誘致の一助として明治5年に創演され、現在毎年4月に上演されています。

先斗町 三条から四条に伸びる一本の通りにある花街です。「都をどり」とともに明治5年に創演された「鴨川をどり」は毎年5月に上演され、第1部はお芝居、第2部が踊りという構成になっています。

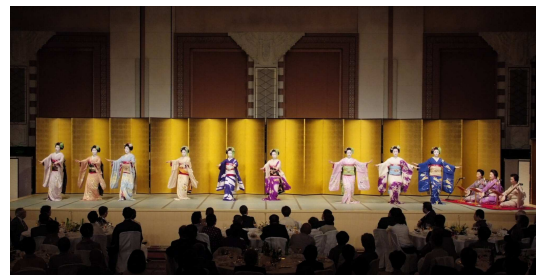
上七軒 室町時代、北野天満宮の門前の御茶屋さんから始まった最も古いといわれている花街です。北野天満宮千五十年大萬燈祭への奉賛として昭和27年に始まった「北野をどり」は、毎年4月中旬に上演され、芝居に重きをおいた舞踊劇が特徴です。

「京の夕べ ～祇園甲部・先斗町・上七軒～」開催概要

【日 時】 2017年6月29日(木)
＜お食事＞ 18:00～
＜開 演＞ 19:15～

【会 場】 宴会場「孔雀の間」(3階)

【料 金】 お1人様 24,000円
(お料理・お飲物付。サービス料・消費税込)



【演目・出演】	鼓 一 調	先斗町	市 豊
	上方唄 <宇治茶>	先斗町	市 福
	端唄 <川 風>	先斗町	光 菜
	端唄 <鴨川小唄>	先斗町	市 照・光はな・市沙登
	長 唄 <風流船揃>	上七軒	市 桃
	端唄 <北野小唄>	上七軒	市多佳・市こま・市 彩
	長 唄 <蓬 萊>	祇園甲部	フク愛・豆千鶴
	上方唄 <貝づくし>	祇園甲部	小 衿・まめ衣・佳つ花
	端 唄 <祇園小唄>		小 衿・まめ衣・佳つ花
			市 照・光はな・市沙登
			市多佳・市こま・市 彩

地方

祇園甲部	唄・三味線	恵美二・ます穂・君 彌
先斗町	唄	久ろく
	三味線	ミヨ作・かず美
	鼓	市 豊
上七軒	唄・三味線	里の助・市 純

ご予約・お問い合わせ先

宴会イベント係 TEL. (06)6881-4650 (受付時間 10:00~19:00)

◆『京の夕べ』にご来場のお客様には、前日または当日にご利用いただける特別宿泊料金をご用意いたしております。

(予約状況によりお部屋をご用意できない場合がございます。)

1室1名様利用／22,000円

2名様利用／27,500円

3名様利用／39,000円

※いずれも1泊朝食付。サービス料・消費税込の料金です。宿泊税は別途頂戴いたします。